

サンティアゴコンポステーラに着いた

2014・No.6

眩しい光の中の大聖堂

23日目 7月7日 14 km

翌朝、メリデの町を出発すると、教会でミサをやっています。ちよつと覗いてみようと思立寄ったら、もう終わって人々が出てきました。その中の一人のご婦人が周平を見つけて「あら、きのうの方ね」と笑顔で近づいて

今回、私たちはついにサンティアゴ・デ・コンポステーラにたどりついたのです。最後にちよつと周平の感想にもありますが、宗教とは無縁の私たちでも、カミーノは「道が歩かせてくれた」ような気がします。人々、歴史や文化、自然（そして自分とも？）出会う道のように思いました。



きて挨拶してくれました。私たちがよきのうの楽しいダンスタイムがよみがえりました♪
きょうの宿はアルスーア。チーズで有名とのことですが、ここでも夕食はブルポと白ワイン（とパンとサラダ）。
24日目 7月8日 19 km
道の脇にシスターたちが数人立ち、巡礼者に声をかけてくれます。スタンプを押してもらい、一緒に写真を撮り、またいい気分です。途中コリアンアメリカンの女性と抜きつ抜かれつするうちにことばを交わすようになりました。アメリカ

でも韓国ドラマは見ることでできるようで、「チャングムの誓い」の話などで、盛り上がりがありました。ただ私たちは超スローペースなので、やっぱり先に行つて頂くようになります。・

次の町はオ・ペドロウソ。町に入つてすぐのオスタルへ。バルの奥が客室になっていて、庭を回つて一階のドアを開けるとすぐに部屋。反対側のドアを開けるとシャワールーム。先に入つた周平、使い方がよくわからず、蛇口をひねったら横から斜めから水が噴き出し、ドアをきちんと閉めなかつたので、部屋の中で濡れてしまいました。あちこちいじつて、出る頃にやり方がわかつたとのこと、ユツ（余計なところははいじらない）を覚えてもらつたので、私の時は大丈夫でした。

モンテ・ド・ゴゾ 15 km

25日目 7月9日 15 km

さてここからコンポステーラまでは約20キロ。1日で歩く人がほとんどなのですが、私たちは5キロ手前のモンテド・ゴソのアルペルゲに泊まります。ここは広大な敷地に、同じスタイルの宿泊棟がたくさんならんでいて、「自分の宿泊している棟の番号を忘れないように」とガイドブックに書かれてありました。確かに!! 同じようなコンク

リート製の棟がいっぱい並んでいました。A、B、Cから始めてそれぞれ1〜20の番号がふつてあります。10ユーロほど余分に支払うと個室が使えるとのこと、フンパツ。指定された棟の部屋へ行つてみると、比較的広く、きれいでホテルのよう。快適で大満足だったので：

二人の巡礼者像

さてモンテ・ド・ゴゾでぜひ行つてみたかったのが「歓喜の丘」。長い長い巡礼道を歩いてきて、ついに遠くに霞む大聖堂が初めて見える場所なのです。丘に立つて指さしている2人の巡礼者の像をなんとしても見たいものだと思つていました。

しかし、それがいったいどこなのか分かりません。アルペルゲの敷地を出て草原をウロウロ・しばらく行くと草原の彼方に霞んだ町並みが見え、なんとなく大聖堂を思わせる建物が見えました。周平は「多分ここにあったんだよ」と言つて、早くも及び腰です。そうか。今ではもう無いのかな？と私も弱気になったものの、車道の向こうの丘を見に行つてみよう。と、すでに足は帰る方向を向いていた周平の気持ちを「付度」することなく、ずんずん砂利道に大つて行きました。しばらく行くと、2メートルほど先にそれらしい像が！はやる気持ち

で近づくと3メートルは超える大きな銅像が建つてました。やった!! 目指す歓喜の丘を捜し当てました。



周平は、私が「場所もよく分からないのに歩き回つて、多分見つかからない。早く宿に帰つて休もう」と思つていたそうです。でも立派なブロンズ像を見つけたときは、「すごいッ」と感動してくれました。確かにここからはるか彼方にサンティアゴの街並みと大聖堂が霞んで見えました。
写真にも納め、安心して宿に帰り、明日のゴールを夢見て眠りにつきました。・がつ!
謎が解けた!?
夜、周平がゴソゴソしています。首回りがかゆいとのこと。そういえば寝る前真っ白なシートに2mm位の小さな虫がいたよな。・!あれは、巡礼道で有名なクニカノミだったのでは!!

そして思い出したのです、以前首が腫れあがったのもそのせいかも!あの時は(若いビキニのお姉さんに惹かれて)川に2回も行ってブヨに刺されたんだね。とあらぬ疑いをかけてしまったのですが。・

一歩一歩近づくと

26日目 7月10日 5 km

かゆくて眠れない、とのこと、まだ暗いうちから起きてしまいました。8時過ぎに出発の予定でしたが、早朝出発に変更。そのとき、リーンと電話。カミーノ先輩のフジケンが日本から「いよいよよきよう到着だね」と、エールを送つてくれたのです。多くの巡礼者がこのモンテドゴソに泊まるのは、10時から開く大聖堂の脇の巡礼事務所です。礼証明書をもらうためです。以前は午前中に証明書をもらえれば、その日に大聖堂で行われるミサで名前を読み上げてくれたのだそうです。でもこのところ巡礼者の数も増え、数年前から一人ひとりの名前を読み上げるのではなく、「どこの国から何人」と発表するだけになったそうです。残念!
だんだんゴールに近づいていきます。到着したらどんな気持ちになるんだろう。・とちよつとドキドキします。コンポステーラという文字も出てきます。
うらへつづく

表からつづく

朝早いのでそれほど巡礼者の数は多くありませんが、心なしか歩いている人だもの表情も、高揚しているように見えます。

「ブエンカミーノ！」というあいさつのことばにも、力がこもります。大聖堂近くで道を間違えそうになった私たちに、「そっちは遠回りになる」と親切に教えてくれるセニョール。

このあたりは旧市街のよう道は細く両側にバルやお土産店が並んでいます。最初に出た広場は写真で見たところとちよつと違ふ・大聖堂の裏でした・ぐるりと回つて・

大聖堂の前に立つ

ここです！ついに、ついに、着きました！

昨年、フランスのサンジャンピエドポーを出発してから2年がかりで800キロの巡礼道を歩き通したのです！

到着した人同志で互いの写真を撮り合いました。私たちが固い握手をしているところを撮ってもらいました。

大聖堂のとなりに広場に面して大聖堂に負けないような立派なパレードが建っています。

このパレードが今日の私たちの宿舎！「サンティアゴに着いたら、大聖堂脇のパレードには是非泊まりたい」と多くのガイドブックに書かれているホテ

ルです。カミーノ到着の夜のなでちよつと贅沢してこの宿の予約を取ったのです。まだお昼前ですが、荷物を預かってもらえるか聞きに行くと、もうチェックインしてもいい、とのこと。それはありがたい！

スピリチュアル？

身軽になつてから巡礼事務所に行き、証明書をもろう列に並びました。自分の番になり、クレデンシャルを提示。そこに押してもらつた宿やお店のスタンプが歩いてきた証明となります。そして「何のために巡礼にきたのか」を聞かれました。

1. キリスト教徒だから、2.

何かスピリチュアルな目的で、

3. 単なる観光で、の3つから選ぶようです。それまで、ずつ

とただ歩く事が好きだから、と思つていたのですが、何故かそのとき、片言の英語で「彼が大きな病気をして『オールモストダイ』だった。それが800キロ歩くことができた。感謝したい」と答えました。

「オー、スピリチュアル」と係の人が2のところを印をつけてくれました。証書入れの筒も売っていたので、購入して、建物の前で写真を撮りました。

事務所のある路地を出ると大聖堂前の広場。そこでは、次々に到着する巡礼者が抱き合つて

喜んだり、記念の写真を撮り合つたりしています。

それから大聖堂のミサに参加しました。

大聖堂の中は思わず声を上げてしまいたくなる高いドームの天井、荘厳な造りです。椅子には大勢の人々が座つていて、まわりに立つている人もいます。なんと空いている場所を見つけて座ることができました。

歩き続け日々と道を思い出しながら聴く讚美歌の美しい歌声は深く心にしみました。

周平が旅の途中で書いたことがあります。

・最後のゴール・コンポステラが近づくにつれて、不思議な感情が湧きおこってきた。二度もクモ膜下出血で倒れ、二度目はかなり重症で「もう山歩きはもろろん一人で歩くことも難しいのでは」と思つたこともある自分。「少しづつ歩く練習をして山にもまた行こう」と言われても非現実的な遠い世界のことのように思えて自分。それが今一步一歩ゴールに近づいている・・・

800キロの巡礼道の記録はこれで一区切り。でも、まだまだ続きがあります！次回「地の果て」まで。

扇子平城址巡り

ウォーキング？NO！トレッキング！！

「八ヶ岳歩こう会」では城跡と館を巡るウォークが7回シリーズで企画され、きょうは5回目です。私たちは第2回の秋山光朝館と椿城跡に参加して以来です。

扇子平は葦崎市の甘利山麓にある武田信玄の重臣・甘利氏の山城とのこと。集合場所が葦崎市旭町の中央公民館、全行程8キロとあつたので、軽い気持ちで出かけました。

急な斜面にドキッ

しかしッ!!この扇子平城跡、典型的な山城で甘利山麓の溪流、断崖に挟まれ、急峻な地形に造られた城でした。最初の林道を緩やかに登つていくとすぐ

に林道から外れ、林道に沿って流れる溪流へ藪の中を下つていきます。「これは軽いウォーキングじゃないぞ」と感じました

が、後の祭り!!リーダー(テツちゃん)の後をついて対岸に渡り上つていきます。鬱蒼とした森の中を歩いていくと森が途切れて、土砂のガレ場に出ました。急斜面に切られた狭い山道を辺り、土砂のガレ場に出ました。急斜面に切られた狭い山道を辺り、土砂のガレ場に出ました。急斜面に切られた狭い山道を辺り、土砂のガレ場に出ました。

下りも油断できず

写真に納まりました。

しかしッ!!「帰りも今来た急な崖、急斜面に切られた狭く細い道を下るのか」・・・と不安に思つていたら、帰りは登つてきた道ではなく、別の斜面を下るようです。良かった！しかしこの下りも道なき道で、樹林の木々や灌木に捕まりながら一歩一歩慎重に。油断するとずるつと滑ります！来るときに通つた溪流の渡渉地点に着いたときはホツと息をつきました。

緑陰の大公寺でお昼

後は林道を下り、昼食場所の大公寺へ。なんとなく見た覚えがあると思つたら、以前のウォークの時に訪れたお寺でした。そのときは確か、花々がきれいだった気がしますが、今は樹々が涼やかな緑陰を作つてくれていました。その後、甘利氏の菩提寺「大輪寺」へ。このお寺のあたりに居館があり、扇子平城は詰城だったらしいです。そこから最初のスタート地点はもう間近

確かに山城の跡

ここまで登ると後は尾根道で平坦な樹林の中の道、と思いきやまだまだ道なき道の登りです。しばらく登つていくと「第二曲輪」「第二堀切」と書かれた看板が立つていて、その先に「扇子平城址」と書かれた石塔が立っていました。急な崖や斜面をよじ登つてきた一行、「やれやれ、やっと着いた・・・」皆、一息つき、城址の石塔を挟んで、集合

「歩こう会」としては珍しくなかなか手強いトレッキングコースでした。

